



は無かったと思う。明治以来戦前までは多くの兵隊を作るための医療に過ぎず、女性の健康は尊重されていなかった。労働環境や、出産の環境など多くの問題があった。飛躍的に日本人の寿命が延び、健康な高齢者が増

えてきたのは国民皆保険制度ができ国民医療が確立したためであると考えている。

高齢者のためによりよい医療制度、良い福祉制度を作ることが今日進行している少子、高齢化社会に対する対策の第一歩であり、高齢者の皆さんが温かい国だな、温かい地域だな、良い医療を受けたなと感じていただける医療提供体制を作っていきたいと考えている。しかし日本の現状はグローバル経済の中で農山村、地方などで限界集落、崩壊しつつある地域が出現するようになってきた。日本の産業と経済が国民を追い詰めてきた現状がある。それは社会の中に格差が持ち込まれてきたことによって、地域、家庭が成り立ちにくくなって生きているためである。これからは等しく豊かな暮らしを求めていく時代になってゆくべきだと考える。

ところが、救急医療の体制にしても以前は救急隊が呼ばれて病院に収容するまで、病院を探すのにそれほど時間がかからなかったが、最近では救急車が患者宅に来てから病院に収容するまでの時間が大変長くなり東京都内でも30分を超えるとというところでもない事態が起こっている。また救急医療ばかりでなく小児科医療、産科医療などにも問題が生じている。

これからは、旧来の疾病の枠を越えた包括的な地域医療提供基盤が必要で、そのような基盤があることで、お年寄りをはじめとした住民の暮らしを支えてゆくことができる。また今後国民皆保険制度の一層の充実をはかり、その下で疾病予防と保健事業がさまざまな年齢、就学・就業環境などにおいて取り組まれるべきであり、その際、まさに地域での取り組みが最も重要となる。日本医師会はそのために質の良い医療サービスを提供し、心身両面の満足を得られるよう努力してゆくとお話を結び、満場の聴衆に大きな感銘を与えた。

なお、オープン病棟開設10周年には武見太郎先生が、同20周年には羽田春免先生が小樽を訪れており、現職医師会会長に祝福していただくのは今回で3回目になる。

講演に引き続き祝典ではこれまで長年にわたってオープン病棟を支えてきた市立小樽病院院長鈴木隆先生、同総看護師長原田悦子氏をはじめ山田勝磨小樽市長などに感謝状が渡された。受彰者を代表して前小樽市医師会会長高橋昭三先生が挨拶し感謝の言葉を述べ、またオープン病棟を支えてきた諸先輩の功績をたたえた。



電子メールによる会員への情報提供について

—メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様に送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp